

資料 2-2

平成 28 年 9 月
SPARC Japan セミナー
企画ワーキンググループ

平成 28 年度 SPARC Japan セミナーの活動計画について

1. 平成 28 年度の考え方

平成 28 年度の SPARC Japan セミナーは、「オープンサイエンス時代の文献とデータの流通：科学的知識創成の新たな標準基盤へ向けて（仮）」というテーマで、文献のオープン化と研究データのオープン化について現況や最近のトピックを踏まえて議論し、最後にオープンサイエンスを総括する。

第 1 回は、APC にまつわる様々な課題の顕在化、Berlin12 における新モデルの提案、出版社によるリポジトリ・プラットフォームの提供等、Gold OA と Green OA のあり方が再び問われており、改めてサステイナブルな OA モデルとは何か議論したい。第 2 回は、研究データのオープン化を進めるにあたって、そして進んでいく時に生じる課題をとりあげていく。第 3 回は、第 1 回、第 2 回のセミナー、そして過去のセミナー（特に平成 27 年度 4 回目）を踏まえつつ、オープンサイエンスの総括を行う。平成 28 年度の SPARC Japan セミナーは、第 5 期 SPARC Japan の基本方針を念頭に、現在、学術情報流通・学術情報基盤の議論の中で、より集中的に検討しなければいけないことをテーマとして取り上げる。

2. 企画（案）

日程 (予定)	テーマ	WG 担当 ◎は主査	備考
第 1 回 9 月 9 日	○「オープンアクセスへの道」 【文献】Green/Gold ・OA のサステイナビリティ	◎蔵川(NII) 坊農(DBCLS) 梶原(北大) 西脇(明治大)	・参加予定数 約 140 名
第 2 回 (10 月下旬) (OA サミット 2016)	○【データ】データマネジメントとインセンティブ ・研究者を巻き込んでいけるようなメリット (データ引用数など) ・データ登録を前提とした査読システム（生命科学分野の事例） ・分野間の差異と連携	◎能勢(京大) 坊農(DBCLS) 南山(極地研) 蔵川(NII)	・候補日 10 月 21 日、24 日、26 日 ・本年度 OAWeek テーマは “Open in Action”、開催期間 10/ 24-30 ・海外招聘可 ・終日の可能性

	-分野によるデータの取り扱い、考え方の違い (生データの価値が高い、処理結果に意味がある等) -分野を超えたデータの利用 ・データ保管・マネージメントは研究不正への対応？ ・図書館員と研究者の連携		
第3回 (12月～1月)	○【総括】研究データの利活用～オープンサイエンス再考～ ・学術情報システム総合ワークショップ：研究データを用いたサービスの調査・企画からの報告 ・研究不正対策から利活用へ ・研究者と図書館員、行政とのインターアクション ・そもそもオープンサイエンスとは。見えていないものを可視化する。 ・研究データ共有は一例、ほかに権利表示の問題	◎梶原(北大) 能勢(京大) 南山(極地研) 小野(東京学芸大) 林(NISTEP)	・海外招聘可